

映画『学校をつくるう』特集

学ぶことの「かっこよさ」  
あらゆる世代に伝えたい



専修大学創立130周年記念映画『学校をつくるう』そのとき、若者たちは未来を見た(文部科学省選定)は、明治初期の激動の時代、アメリカに留学した本学の創立者4人の学校づくりへの情熱を、いきいきと描いた青春群像劇。2月19日(土)、いよいよロードショー公開される。

キャストは、創立者4人に三浦貴大(相馬永胤)、池上リョウマ(田尻稻次郎)、橋本一郎(自賀田種太郎)、柄本時生(駒井重格)。ほかに近衛はな(相馬の妻・陸)、橋爪遼(三浦和夫)……と次代の映画界を担う若手俳優がずらりと並んだ。本学のOBである永島敏行(昭54文)、尾崎英二郎(平3経済)らががちり脇を固める。

メガホンを取ったのは、ヒット作『ハチ公物語』など映画の映画化に定評がある神山征二郎監督。

今号は、神山監督のインタビューと昨年12月12日、神田キャンパスで開催された同映画の完成披露試写会を鑑賞したみなさんからの「感動の声」をお届けしよう。(敬称略)

学生たちもエキストラで

▲ 専修大学の学生たちがエキストラで出演した長野県上田市での相馬・田尻追悼シーン。中央が神山監督



「スタンプスピーチ」をする自賀田種太郎(橋本一郎)＝映画のワンシーン

● 神山征二郎監督語る



キストラとして協力してくれた。何事にも一生懸命で、優しく、穏やかで。岩井君のイメージは、そのまま専修大学のイメージにつながっている。

映画『学校をつくるう』は、実在した4人の人物の史実を再現した物語。「専修学校」という学校の歴史が背景にあるが、硬さを感じさせない、さわやかな青春グラフィティにしたかった。

そして、「知の楽しみ」を勉強することの「かっこよさ」を伝える、という思いがあった。

相馬は「戊辰戦争」を戦ったサムライだ。「人の命」にかかわるトラウマや背負ったものの大きさを乗り越えてきた人物だ。

高校時代(県立岐阜北高)の学友で卒業後、専修大学に進学した、今は亡き岩井聡武くんがこの映画をささげたい。彼は、上田市で行った映画冒頭の相馬・田尻の追悼シーンには、大勢の専大生や専大関係者の方々がエ

勉強することの「かっこよさ」を伝える、という思いがあった。

相馬は「戊辰戦争」を戦ったサムライだ。「人の命」にかかわるトラウマや背負ったものの大きさを乗り越えてきた人物だ。

「かっこよさ」を伝える、という思いがあった。

相馬は「戊辰戦争」を戦ったサムライだ。「人の命」にかかわるトラウマや背負ったものの大きさを乗り越えてきた人物だ。

「かっこよさ」を伝える、という思いがあった。

相馬は「戊辰戦争」を戦ったサムライだ。「人の命」にかかわるトラウマや背負ったものの大きさを乗り越えてきた人物だ。

創立者4人の勇気と志  
今、みんなのものに

「かっこよさ」を伝える、という思いがあった。

相馬は「戊辰戦争」を戦ったサムライだ。「人の命」にかかわるトラウマや背負ったものの大きさを乗り越えてきた人物だ。

「かっこよさ」を伝える、という思いがあった。

相馬は「戊辰戦争」を戦ったサムライだ。「人の命」にかかわるトラウマや背負ったものの大きさを乗り越えてきた人物だ。

「かっこよさ」を伝える、という思いがあった。

相馬は「戊辰戦争」を戦ったサムライだ。「人の命」にかかわるトラウマや背負ったものの大きさを乗り越えてきた人物だ。

創立者4人のプロフィール



相馬 永胤(そうま・ながたね) 1850(嘉永3)～1924(大正13)。彦根藩士の家に生まれる。1871～79年米國に留学、コロンビア法政学校卒業後、ワシントン大学法政大学院で法律、経済学を学ぶ。専修学校初代校長、初代学長を歴任。法律学を講じた。この間、司法省附随代官、判事、横浜正金銀行取締役、同頭取などを歴任。第1回衆議院議員選挙に当選。



田尻稻次郎(たじり・いなじろう) 1850(嘉永3)～1923(大正12)。薩摩藩士の家に生まれる。1871～79年米國留学。エール大学文科卒業、同大学院で経済学、財政学を学ぶ。専修学校では経済学の講義を担当。1881年、東京大学講師。大蔵省銀行局長・主税局長、大蔵次官、大蔵総務長官、会計検査院長、東京市長などを歴任。子爵。法学博士。



自賀田種太郎(めがた・たねぞう) 1853(嘉永6)～1926(大正15)。幕臣の家に生まれる。1870年米國留学、ハーバード法政学校卒業。1875年留學生監督として再渡米し1879年帰国。法律科の講義を担当。司法省附随代官、判事、横浜税関長、大蔵省主税局長などを歴任して税制・財政制度の整備を行う。貴族院議員。韓国財政顧問。枢密顧問官。男爵。



駒井 重格(こまい・しげただ) 1853(嘉永6)～1901(明治34)。桑名藩士の家に生まれる。1874年旧桑名藩主・松平定教の米國留学に随従し、ラトガース大学で経済学を学ぶ。1879年帰国。経済科の講義を担当。大蔵省准奏任御用掛となり、大蔵省参事官、国債局長などを歴任。1899年から高等商業学校(現一橋大学)校長を務める。

神山征二郎 1941年生まれ。岐阜県出身。63年、新藤兼人監督が主宰する近代映画協会に参加。71年、『鯉のいる村』で監督デビュー。87年『ハチ公物語』が大ヒットし、「山路ゆみ子賞」受賞。88年に神山プロダクションを設立する。ほかに『二つのホームニカ』(76年)『ふるさと』(83年)『遠き落日』(92年)『郡上一揆』(00年)『草の乱』(04年)『ラストゲーム』最後の早慶戦(08年)など。今年、監督生活40周年を迎える。